

<「知るっば!久留米」 令和3年7月22日(木) 12:30~放送分>

全国総本宮 水天宮 ～第4回～ 「水天宮の年間行事」

<ゲスト：全国総本宮 水天宮 権宮司 眞木 啓樹さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です!

今月は、『全国総本宮 水天宮』をテーマにお送りしています。ゲストはこの方です!

ゲスト:眞木さん(以下「眞木」)

水天宮の眞木啓樹(ひろき)でございます。よろしくお願いします。

坂本 4回目の今日は『水天宮の年間行事』についてお話を伺います。

ゴールデンウィークの春の大祭とか8月の夏祭りなど、おなじみの行事がたくさんあります。

1年を通じて、どんな行事があるのでしょうか?

眞木 まず、1月からご紹介していきます。

みなさん、お正月には三が日のお参りに行かれると思いますが、

どこの神社でも1月1日には歳旦祭(さいたんさい)が行われます。

そして、歳旦祭の後、1月5日というのが、水天宮の最初に迎える縁日ということで、

「初水天宮祭」という祭典が行われます。

また、これは表には出ないお祭りなんですけど、1月下旬から2月上旬の立春にかけて

「神水祈禱(しんすいきとう)」というすごく重要な神事が行われます。

この神事では、毎年立春の7日前から神職全員が参籠(さんろう)というおこもりに入るんですが、

毎日定刻に祈禱祭を行います。

そして、その納(おさ)めにあたる結願祭(けつがんさい)というお祭りが、節分の2月3日にあります。

その結願祭は夕方にあるんですが、その後、夜12時になると2月4日の立春ですよ。

それに合わせて別水(べっすい)神事が行われます。

これは、1年で1番清らかな水を汲むお祭りになります。

そして、そこで汲んだお水というのが、水天宮のお札やお守りに使われる水だったり墨だったりに使われます。

実際に春の大祭や花火大会というのが賑やかな表のお祭りだとすれば、

こちらは、裏の静かなお祭りにあたりますね。

坂本 静、動両方ということですね。

春になるとやっぱり、5月5日の「例大祭(れいたいさい)」が1番有名で1番賑やかですよ。

これは、そもそもどんな行事なんでしょうか?

眞木 水天宮の春大祭は、5月3日の「献茶祭(けんちゃさい)」というお祭りから始まります。梅林寺の老子(ろうし)と雲水(うんすい)が水天宮に出向きまして、水天宮の神職と神仏習合で祭典を行います。神様にお茶をお供えするお祭りなのですが、表千家不白流(ふはくりゅう)の先生方がお点前をたていただき、それに梅林寺の老子がお香を添え、それを神様に奉納するという神事になります。

坂本 神仏習合ということで、なかなかユニークなお祭りですね。僧侶の方が神社に入ってきて、お祭りを一緒に執り行うということは珍しいんでしょうか？

眞木 そうですね。あまり見受けられないかもしれませんが、日本の歴史では神社やお寺が非常に大切にされていて、江戸時代の神仏習合が今に伝わる行事なのかなと思います。そして、5月4日になると「御神幸祭(ごしんこうさい)」が行われます。御神幸祭は、他の神社では御神輿(おみこし)が練り歩くお祭りにあたりますが、水天宮の場合は「川祭り」と言ったりします。安徳天皇を始め平家一門のお慰めを目的にできた水天宮には、世話役の神座(しんざ)という方がいます。毎年5月1日にクジで代表を1人決めて、その代表の本座(ほんざ)が、生きた鮒(ふな)や甘酒、お赤飯などのお供え物を準備します。そして、この御神幸祭が終わった後、筑後川に生きた鮒を放流することで、より川が清らかになると言われている祭典になります。

坂本 筑後川と共に歴史を刻んできた水天宮ならではの行事なのかなと思います。そして、5日の例大祭へと続くわけですね。

眞木 「春大祭(例大祭)」は、水天宮で1年に1度行われる最も重要なお祭りです。このお祭りには、国の隆昌(りゅうしょう)や神社の起源が含まれたお祭りにあたります。水天宮の例大祭の見どころは、京町小学校の女子たちが奉納する「浦安の舞」です。十二単を着て舞うので、とても華やかですよ。

坂本 あーそうそう、うちの長男のクラスメートも舞いを披露していましたね。非常に懐かしいですね。普段は活発なというか、おてんばな子たちが、厳かに舞う姿というのは非常に新鮮でしたね。春の大祭は、新緑の中で開かれる、とても心洗われる行事でもありますね。

眞木 そうですね。楠木正成(くすのきまさしげ)公をしのぶ「楠公祭(なんこうさい)」も行われます。この楠公祭は、和泉守が明治維新の時に楠木正成の生まれ変わりということで「今楠公(いまなんこう)」と自分のことを言いながら行いました。つまり、和泉守は楠木正成公にすごく憧れていたというところから始まったというお祭りが、5月の末にあります。

坂本 神職だった眞木和泉守がお始めになった行事もあるということですね。

眞木 また眞木神社では、7月21日が眞木和泉守の命日ですので、その日は眞木神社霊祭が催行されます。
前回お話した水天宮船太鼓による奉納や、地元の水天宮保育園の園児のみなさんが眞木和泉守の歌を歌ったりという奉納があるのが、7月21日の眞木和泉守霊祭にあたります。

坂本 地元に住んでいますので、太鼓の音が聞こえると本格的な夏が来たという気持ちになりますね。
そして、夏の水天宮と言えば、8月5日の花火大会ということになりますよね。
前々回も少し触れましたが、花火大会について改めて教えて頂けますか。

眞木 花火大会と言いますと、1650年に久留米藩2代藩主・有馬忠頼公が、今の水天宮がある場所の土地と建物を寄進した時、祝賀に奉納の花火を打ち上げたのが起源だと言われています。
今では、18,000発を打ち上げる西日本有数の花火大会として知られているのが、「筑後川花火大会」になります。

坂本 久留米の夏を彩る花火大会は、過去には戦争だったり、今ではコロナ禍だったりで中断されましたが、360回を超えるという全国屈指の歴史を誇っています。
また、落ち着いて河川敷で見たいなど感じますね。
それから、秋になるとどんな行事があるのですか？

眞木 秋は、これといった大きな恒例行事やお祭りはないのですが、どこの神社でも行われますが、「七五三」が賑わいます。
七五三というと11月に密集しがちなところはあるんですけども、去年もそうですが、できるだけ早い段階から千歳飴も準備させて頂いておりますし、1年を通して七五三という祈願祭ができるように準備しております。

坂本 今は、七五三の参拝とお祝いも年中受け付けていらっしゃるんですね。
我が家からちょうどお宮の駐車場が見えるんです。
そういえば、早くからお参りの家族連れがお見えですよ。
今回も貴重なお話をありがとうございました。
水天宮にお越しの際は、密を避け、境内の感染症対策にのっとり参拝をお願いします。
次回は、シリーズ最終回『水天宮の今』をテーマにお送りします。
楽しみに。